

第1回二戸市総合計画審議会 議事録(要旨)

1 日 時：平成27年7月3日(金) 午後1時30分～午後3時30分

2 場 所：岩手県二戸地区合同庁舎 1階大会議室

3 出席者(敬称略)

(1) 委員

阿部 悦子、安保 公一、五日市 真一、遠藤 享、大久保 瞳、加藤 聡、久慈 浩、黒澤 克子、柴田 清克、下館 光弘、平 裕一、永井 尚子、長葭 常紀、浪岡 正行、成島 英史、馬淵 貴尋、三角 壮一、山田 佳奈

(2) 市側

市長 藤原 淳、副市長 戸館 弘幸、教育長 鳩岡 矩雄
総合政策部長 大沢 治、総務部長 田中館 淳一、市民生活部長 佐々木 建一、健康福祉部長 阿部 満男、産業振興部長 三角 正裕、建設整備部長 山下 謙二、浄法寺総合支所長 三浦 幸治

(3) 事務局

副部長兼政策推進課長 石村 一洋、副主幹 泉山 茂利樹、主査 五日市 寿丸、主任 藤原 悠治

4 会議の概要

1) 開 会

2) 委嘱状の交付

委嘱状の交付 委員及び出席者の紹介

3) 市長あいさつ

市外から山田委員、長葭委員が、また、金融関係、労働関係、報道関係からも入っていただいた。様々考えられるところからお集まりいただき、これからの二戸市の計画作りを進めて参りたい。

これから5年、10年、二戸市にとってどういう位置づけかということを上申すると、人口減少が進み、少子高齢化が進み、財政悪化が進んでいく中でどういう風に二戸市の将来を作っていくのかが問われている。まさに、二戸市の底力からを見せていく必要がある。

これまで市民の皆さん、各団体とお話した中で、例えば八幡下にはお店が無くなって荷渡に行ったので橋をかけながら両地区の連携を図ったらどうかという提案をいただいていますし、若い人たちが取り組んできたカーリングがオリンピックにつながったこともあり、カーリングの練習ができるようにしてほしいという思いも聞いている。

様々な分野でやらなければならないことはたくさんある。天台寺も修復作業を進めてみたら中が全然だめで予算が倍かかるというのも出てきた。これを避けることはできないのでやるべきものはやっていく必要があると感じている。

人口が減っていく中でいきなりストップをかけることはできない。そのスピードを緩めることはできるかもしれない。ただ、ここに残る人たちがもっと生き生きとまちのために動いてもらえばいいのではないか、そのために人づくりが大切である。

各界、各分野を牽引する若い人たちが自分たちでこのまちを考えていっていただければと思う。

これから物質的な豊かさでなく、精神的な豊かさが求められてくるし、行政として連続してやっていくためにはどうすればいいのかということとスリム化が求められてくる。

産業振興でもどの分野に雇用を生ませていけばいいのか。誘致企業は期待できない。今ある産業をもっと太くしながら雇用を作っていく。また、農業も1個2,000円のはるかをもっと作っていくためにはどうすればいいのか、漆の分野での雇用をどのようにして生んでいくのか知恵を絞ってやっていく必要があると感じている。

今、若い人の意見を聞きながらやっている。20年、30年後のまちをどのように作っていったらいいのか聞くと、その時はもう死んでいないという話がされる。その息子さん、孫のためにどのようなまちを残していったらあげられるのかと考えてもらえれば将来の二戸市の姿が浮かんでくると思う。

皆さんの知恵やアイデアを出していただき、将来の二戸市のため力を貸していただきたい。

4) 議 事

(1) 二戸市総合計画審議会について

【資料の説明（石村課長が内容説明）】

(2) 会長及び副会長の選任について

会長に久慈 浩委員、副会長に阿部 悦子委員を選任

(3) 二戸市総合計画（H18～H27）について

(4) 次期総合計画策定基本方針について

(5) 二戸市版人口ビジョン・総合戦略について

【一括議題とし、資料を説明（石村課長が内容説明）】

(6) 意見交換

【主な質疑・意見】

○委員

ホームページを見ると市長演述に市長が市をどうしたいという内容が載っている。

産業、防災、健康を進めると書いてある。これらの施策は小保内市長から引き継いでいるものなので、これからの計画、30年後のビジョンを進める中には夢をいっぱい入れて欲しい。

進捗率の7割、これを低いと見るか、高いと見るか、7割は及第点だと思う。

夢をいっぱい書いた時に6割になるかもしれない。それでも半分しかいかないと言わないこと。夢をいっぱい書いてもいい。

それから、実現できなくても進んでいないと言わないようにして欲しい。30年後、自分たちの子ども、孫までお父さんがよくやってくれたというそういう計画を作って欲しい。

基本方針について、藤原市長が県で作ったものと変わらないのではないかと。盛岡市の計画にも使える。どこでも使えるものになっている。

そうではない。二戸らしさをもっと出させて他の市町村にできないことを載せて欲しい。

浮かぶのは、二戸市の立地。八戸から1時間、三沢から1時間30分、高速もある。

震災の時に防災拠点で売り出した遠野市は災害の拠点として沿岸よりにある。

ここは、青森も含め防災の拠点となる。二戸の宝も盛り込んでいきたい。

○市長

市長になってから1年6ヶ月経った。

今年は後期基本計画の最終年度であり、新しい計画を策定する年でもある。

後期基本計画の中では、福岡中学校、浄法寺バイパス、二戸消防署が今年完成する。

できなかったものは旧岡本小学校跡地の歴史・文化交流施設の建設である。

金田一温泉センターは国体まではつなげて運営していく。

今の総合計画のテーマである「活力と安心、歴史文化の薫る拠点都市」の検証がどうなっているのかという部分も問われる。

活力は、地域や企業の活力であり全体で進めていく。男子型企業が来なかった部分がある。

歴史文化の薫るについては、天台寺の修復、九戸城跡の誘導について進めている。裁判所や元法務局の場所を生かしながらまちづくりを進める。

ハード事業は進めているが、ソフト事業は市民協働事業が進んでいないと感じている。

漆については、文化庁の指定を受けて重要文化財に国産漆を使うことになった。漆を掻いて出すだけでは地元にお金が残らない。漆器や道具を作る人も一緒にやっていく必要がある。

フルーツの里も同じように考えていく必要がある。

二戸をこういうまちにしていきたいというのがあればいい。特徴的なものになる。

○委員

ワークショップとか他の自治体の取材に行くことがある。

一番大きいのが人口流出である。二戸を出て行く人の分析が必要になる。

軽米町の分析では、高校を出た人がどこの市町村に行っているのかという部分が一つの参考になった。

軽米町では関東ではなく盛岡市への転出が多かった。どこに人が行くのか分析するのが参考になる。大づかみではなく細かい分析が必要ではないか。

後期基本計画の検証も、事業費ベースではない部分で、10年の計画が達成できたかどうかの分析の仕方、方法も考えていかなければならないのではないか。

○市長

市民が満足しているのかという点ではソフトの部分も確認していかなければならない。

○会長

福岡工業高校はほとんど東京に行っている。

○委員

様々な問題を解決し、事業をおこす際に、何からするのかという部分で現状分析が必要である。

国が提供しているビッグデータを使うとどこから二戸に来るとか、ものすごいデータを駆使して感覚ではなく数字で議論を展開していくことができる。

また、全員が意見を述べられるようなやり方が必要だと思う。ブレインストーミングのようなやり方で、年代別、産業別に大きく出してもらったらどうか。

そういうことでアイデアや知恵が出てくる。二戸らしさも出てくる。

○委員

委員から高校生の転出の話があったが、昨日、来春の高校生に対する合同企業の説明会を行った。企業を26社で募集をしたらあっという間にいっぱいになった。

一方、肝心の生徒は57人だった。去年は100人近くあった。

管内の就職希望者の割合が低い。管内に就職を希望する人は卒業者に対して10%程度、500人いても50人という現状である。

6割は進学するので、そこにアプローチしていかないと、行政だけではなく企業側の努力も必要になってくるし、その部分の対策を取っていかないと人を確保できない。

○副市長

私の方からは、総合計画のワークショップで話題提供したことをお話する。

これから雇用と所得が重要になる。そこを二戸でどう生み出していくか。大きい企業に来てもらうのは難しい。

視点として、地産地消がある。

例えば、観光客が落としたお金で灯油を買うのではなく、地元の工務店で暖房がかからない家を作ってもらおう。そこで地元にお金が落ちる。地元の資材を使うとそこにもお金が落ちる。

地域の中でどれだけお金を回せるかということが雇用にもつながってくる。

施設や、地元、地域の中でお金が循環していくことが必要である。

就職の話があったが、1人でも2人でも雇用を増やしていくことが重要である。

○委員

福岡中学校は、新しい学校ということで生徒や職員がはりきってやっている。

地元の親を講師にして、自分たちが暮らしていることを考えるという事業をやっている。

どういう思いで地元で仕事をし、どういう思いで子どもを育てているのかということを学んでもらうものである。

学校の先生からはやる必要があるのかという話をされている。

先生から理解をもらいながら進めればよかったが、先生も遅くまで仕事をしてアップアップのような状況になっている。

このような先生にも目を向けて欲しいと思う。こういうソフトな部分にも力を入れて欲しい。そういうことで二戸がモデルケースになると思う。

○委員

PTAの部分は委員がお話したとおりだと思う。

私の地区は漆掻きが多いので話を聞く機会がある。

浄法寺の漆は、お金を得るために始めたものである。それを日本、世界に向けてという話をされてもピンと来ないという話になる。

技術的には、引き継いでいかなければならない。

今までの漆掻きと違うように考えていかないと整合性が取れなくなるのではないか。

高校生が地元から出て行くことについても、個別に聞いていかないと分からない。

商売をやっているのは気に入らない人は何も言わずによその店に変わってしまう。文句を言ってもらえれば直すことはできるが。

転出でも、何が原因で出て行ったのかこちら側から調べていかないと何も言わずに外の県に行って帰って来ないということになる。

原因が分からないと対策のしようがないのでそういうところを細かくやらないと、なぜ減っていくのかという所を調べるのが一番重要ではないかと思う。

○委員

カーリング協会は1995年に設立して今年で20年目、目標を達成した。

12年目で世界選手権の選手を出し、16年目で私も日本一になった。19年目でオリンピック選手が出た。目指せオリンピックのスローガンを達成できた。

市の総合計画にも県の総合計画にも1行だけカーリングのまちづくりというのが入っている。

その1行でどれだけがんばる力になるかというすごく重要なことだと思う。

北見市、帯広市、青森市などは全部自前の市営のカーリング場を持っている。

今度盛岡に新しいカーリング場ができて色んな状況が変わってくる。

市のものとしてこの競技を考えてもらうのが大事だと思う。

二戸には日本一になった種目がいっぱいある。野球、剣道、弓道などの競技を取り上げることで、励みになり、パワーになる。

今度の岩手国体でもこの地で冬も夏も色んな競技が行われ、その決勝戦に市民が入ると思う。それを市民が全員で応援して昭和45年の時のような大きな盛り上がりをもみんなで作るということが必要である。そういうまちには人が帰ってくると思う。

小さな町でもカーリングをやっていた人は帰ってくる。カーリング場には人が集まってコミュニティの場になっている。そういうのがスポーツの力である。

○教育長

委員のおっしゃった夢を持てる地域、プランのためには、一人ひとりの子どもが自立していかなければならない。

まずは、小中学校で学力をしっかり身につけることが大事である。

学力がついてこそ自立につながる。そこをきちんと押さえておかなければならないということを申し上げたい。

委員から発言のあった中学校の事業はありがたいと思っている。学校でもやりたいと思うが学校にも事情ある。年間計画がきちりしているので急に入るのが難しい。

わたし達も小学校4年生以上の生徒に映画を見せる事業を行うのに1年かけて調整が必要だった。

学校にはそういう面もあるということをご理解いただきたい。

先生が忙しいという点で、私がいつも先生たちに言っているのは多忙感と多忙化は違う。多忙感は個人の感覚であり、行政としては多忙化を何とか防ぎたいということで現場とやりとりしている。

○委員

福祉は日々の支援で成り立っている。

利用者はもちろんだが職員がいる。職員が来てくれなければ支援や事業所は成り立たない。

女子職員が多いが、その中でも子どもさんを抱えている方が最近が多い。

そういう職員を私が見ていると一生懸命やっているけれども時間的にも経済的にも苦しそうに見える。

女性はがんばれと言われても子どもが病気になるとかいろんな事情があって出社できない時がある。そういう時にどうやって手を差し伸べてあげればいいのかというのが難しい。

女性も働きたいが、子育てもあるし、家庭もあるし、イクメンとも言われているがどうしても女性の比重が大きい。そういうところへの暖かさがないと女性はやっていけない。

そういうところで市や企業もやさしさがあればいい。

○委員

この審議会には、よそものの視点があってもいいのかなという事で委員になったと感じている。

私が17年前に岩手に来たときにカルチャーショックを受けた。それは、学生が岩手が好きだと言っていたこと。これはすごいことである。

聞いてみると、郷土芸能をやっていたとか、いつか帰りたいという声を良く聞く。

これは、地域の力、地域の皆さんが持ってこられた教育力があるということを感じている。

二戸市には、雑穀、お酒造りでお世話になり、浄法寺漆のプロジェクトでは漆の現状を学ばせていただいた。

まずは、現状を知る。先ほど何人かの委員さんがお話されていたように分析、今がどうなっている

のかをきちんと知ることで見方が変わるということは何年も見ている。

地元の人に二戸の良さをどうやって知ってもらうか、また、二戸に来た人にどうやって見せていくか、仕組みづくりが必要である。

県の審議会でも人口の検討をしているが、最終的には、人口と豊かさを分けることは難しいということと一緒にやっている。

最終的には人づくりということが言われている。

また、一旦外に出ることはある部分避けられない。しかし、そこから帰ってきたいという人をどうやって受け入れるかというところの受け皿づくりをどのようにしていくか。地域で迎えるための基盤づくりが必要である。

漆についても全部自分でやるのではなくて、色んな垣根を低くしてどうサポートする仕組みを作っていくかというところが一つの重要な契機に来ていると感じる。

若い人のサポートの部分では、社会減の分析は私も必要だと思う。

委員からお話があった、文句を言わずに去っていくというのは、岩手に来て私も聞いたことがある。文句やクレームをどういう風にプラスに変えていくかというのはとても重要なところである。

福井で以前クレーム博覧会を開催していた。クレームを宝として次につなげていくということを開き直ってやっていくのも一つのアピールの仕方である。

資料の基本方針の中で、3ページにある、地域の課題を共有するというのが重要になってくると思う。

人口減少というのはリアルに実感するのは難しいかもしれない。その課題をどうやって共有していくかというのは討議の場を共有することに関わってくると思う。

皆さんが二戸の地域の課題をどういう風を感じているのか、それをどういう風に共有していくことができるのか、それを共有する中で、手作り感のあふれる、皆さんの声がきちんと反映される、実効性をもった計画となることを強く期待している。

地域固有の資源は二戸らしさと共通すると思うが、私からするといっぱい資源がある。それを地元の人がどういう風にこれが自慢だよという風に言うのか楽しみであり、いっぱい出していただきたい。

この検討の中で二戸市の強みを目いっぱい出して、現実のところは現実として捉えていくということをやっていただきたい。

二戸市がとても重要な時期だと思うので皆さんと一緒にわたし達も微力ながら考えさせていただきたい。

(7) 今後のスケジュールについて

【資料の説明（石村課長が内容説明）】

質問・意見なし

(8) その他

なし

5) 閉会